

「JENESYS2025」中国大学生映画交流訪日団の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

本事業は、「映画」をテーマに、上海大学上海電影学院に所属する大学生・大学院生を訪日招聘し、東京国際映画祭（TIFF）イベントへの参加、TIFFCOM 視察、日本人監督や日本、海外の学生との交流、博物館参観、企業視察などを行うことで、映画を通じた日中相互理解を深めるとともに、今後につながる人脈形成を促すことを目的として実施しました。

【参加者】中国の大学生等 合計 25 名

【訪問地】東京都、埼玉県

【日程】2025 年 10 月 31 日（金）～ 11 月 6 日（木） 6 泊 7 日

■ オンライン事前オリエンテーション：10 月 24 日（金）

■ 招へいプログラム：

10 月 31 日（金） 羽田空港より入国

【東京国際映画祭】TIFFCOM 視察

歓迎会

11 月 1 日（土） 埼玉県へ移動

【視察】角川武蔵野ミュージアム

①日中アニメ映画祭紹介、②概要紹介、③体感型デジタルアート劇場鑑賞、④館内参観

【文化体験】キツネお面製作

東京都へ移動

11 月 2 日（日） 【視察】東京国立博物館（VR シアター等）

11 月 3 日（月） 【視察】国会議事堂

【東京国際映画祭】アジア学生映画コンファレンス ミートアップ・ネットワーキングイベント

【視察】歌舞伎座ギャラリー

【東京国際映画祭】アジア学生映画コンファレンス入選作品（プログラム 1）鑑賞

11 月 4 日（火） 【視察】TOHO 映画スタジオ

①会社概要紹介、②撮影スタジオ等施設見学

【東京国際映画祭】アジア学生映画コンファレンス マスタークラス

①深田晃司監督マスタークラス、②りんたろう監督マスタークラス

11 月 5 日（水） 【視察】江東区深川江戸資料館

【視察・交流】日本大学芸術学部

①概要説明、②学生作品鑑賞、スタジオ等学内施設見学

【東京国際映画祭】クロージングセレモニー

【東京国際映画祭】クロージングパーティー

11月6日(木) 歓送報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

【視察】国立映画アーカイブ

羽田空港より出国

2. 記録写真



10月31日【東京国際映画祭】TIFFCOM 視察



11月1日【視察】角川武蔵野ミュージアム



11月3日【東京国際映画祭】
アジア学生映画コンファレンス ミートアップ・ネ
ットワーキングイベント



11月4日【視察】TOHO 映画スタジオ

	
11月4日【東京国際映画祭】 アジア学生映画コンファレンス マスタークラス	11月5日【視察・交流】日本大学芸術学部
	
11月5日【東京国際映画祭】 クロージングパーティー	11月6日【視察】国立映画アーカイブ

3. 参加者の感想（抜粋）

◆中国大学生

今回の訪日期间中、東京を訪れ、日本の映像産業の制作プロセスや市場の仕組みを体験することで、日本映画の産業体系や創作環境についてより直感的に理解することができました。日本の映画関係者や学生との交流を通じて、彼らが物語の構造、カメラワーク、チーム協力において持つ専門的な精神と細やかな態度を深く感じました。特に中国の若手クリエイターの短編作品について議論した際に、日本側から提案されたリズムのコントロールや感情表現のアドバイスは、今後の私の創作に新たなアイデアをもたらしてくれました。さらに、日本の映像教育システムが実践訓練を重視していることを知り、国内の教育改善の方向性についても考えさせられました。今回の交流は視野を広げただけでなく、国際的な視点で映像表現を探究するという私の信念をさらに強固なものにしました。今回の交流で、日本の学生監督の短編作品を鑑賞し、彼らとの交流を通じて、題材や技法、ジャンルなどの面で、日本の映画を学ぶ学生はすでにアジア、さらには世界の最前線に立っていることを実感しました。

◆中国大学生

終了したばかりの東京国際映画祭の交流訪問では、私たちは深い交流と学習を行い、期待をはるかに超える成果を得ました。特に私が感慨深く思ったのは、この旅が私の日本文化に対する元々の印象を根本的に変えたことです。正直に言うと、以前は日本文化に特に強い関心は持っていませんでした。しかし、現地を訪れたり、映画を観たり、日本の同年代の人々と率直に対話したりすることで、その独特な美意識、厳格な職人精神、そして伝統と現代が融合した特別な魅力に魅了されました。この変化は非常に大きく、深いものです。今回の経験で、異なる文化間の交流と相互理解がいかに重要でまた必要であるかを身をもって実感しました。それは固定観念を打ち破っただけでなく、新しいインスピレーションや考えも引き出しました。特に映画制作の分野において、中日両国は一衣帯水の隣国として、感情表現や美学の追求において共通点がある一方、それぞれ独自の特色も持っています。将来を見据えると、映画産業に限らず、より広い文化分野においても、両国はより円滑で効率的な交流のルートを構築し維持すべきです。継続的な対話と協力を通じて、私たちは完全に相互利益を実現し、アジアはもとより世界の文化の発展に新たな活力を注ぐことができます。

◆中国大学生

今回の訪中団で、日本の映画界、文化界、学界と交流し、多くの具体的な新しい発見と深い収穫を得ました。主に以下の方面に焦点を当てました。

一、産業技術：伝統と最先端技術の融合によるイノベーション

TOHO スタジオと角川武蔵野ミュージアムを視察し、日本のコンテンツ産業の最先端技術と伝統的な物語を深く融合させる力を強く実感しました。TOHO スタジオは、成熟した物理的特殊効果や精巧なミニチュアモデルの展示だけでなく、先進的なバーチャルプロダクション (Virtual Production) スタジオも備えており、背景のリアルタイムレンダリングと俳優の演技をシームレスに組み合わせることができ、創作の自由度が大幅に向上しています。角川ミュージアムは、没入型デジタルアートの展示を通じて、静的な文学や漫画の IP を体験可能な動的なビジュアル空間に変えています。これは「技術は物語に仕える」という日本の理念を示しています。つまり、技術は単に見せびらかすものではなく、より心に響く感情体験を生み出すためのものです。

二、文化の継承：歴史資源の現代物語における「翻訳」

東京国立博物館や江戸資料館を訪れ、狐のお面作りを体験することで、日本文化が持つ強力な「翻訳」力を実感しました。彼らは単に伝統を複製するのではなく、歴史や文化財に見られる美学的なシンボル（浮世絵の構図、能の面など）を抽出し、それを巧みに現代の映画、アニメ、ゲームのキャラクターデザインや世界観の構築に取り入れています。歌舞伎座ギャラリーで、私たちは歌舞伎の定型化された演技が日本の俳優の身体表現にどのように影響を与えたかを学びました。このように自分たちの文化の DNA を体系的に整理し、創造的に変換することは、私たちの創作に貴重な手本を提供してくれています。

三、教育体系：産学連携による実践型人材育成

日本大学芸術学部の訪問は、この旅の重要な成果でした。その教育体系は非常に実践的です。学生は大学 1 年生の時から 16mm フィルムの撮影に触れ、基本技術を磨きます。学校は業界（例えば東京国際映画祭）と密接に連携しており、多くのインターンシップやプロジェクトベースの学習機会

を提供しています。学生との交流の中で、彼らは監督や撮影を学ぶだけでなく、制作や配給などの全産業チェーンについても明確な認識を持っていると感じました。この教育モデルで育成されるのは、孤立したアーティストではなく、すぐに業界に溶け込める高い適応力を持つ専門人材です。

四、業界生態：国際的な視野とコミュニティ育成の両立

東京国際映画祭、TIFFCOM マーケット、アジア学生映画コンファレンスに参加して、私は日本の映画業界の開放性を直接体験することができました。TIFFCOM はアジアの重要なコンテンツ取引市場として、非常に専門的かつ効率的に運営されており、日本が国際協力において架け橋の役割を果たしていることを示しています。そして学生映画コンファレンスでの交流会において、日本側の主催者は特別にリラックスした平等な雰囲気を作り、アジアの若手映画人がつながりを築くことを奨励していました。これにより、健全な映画生態にはトップクラスの国際プラットフォームが必要だけでなく、新世代コミュニティネットワークの丁寧な育成も欠かせないことを認識しました。

まとめると、この旅の最大の収穫は立体的な認識を築いたことです。日本の映画とコンテンツ産業の強さは、「文化的な素養の深い掘り下げ」「技術的言語の精緻な応用」「教育システムの実務的支援」、そして「産業生態の開かれた協力」という四つが形成する良性のサイクルにあります。これは私の将来の創作と研究に具体的な学習の指針と貴重な国際的視点を提供してくれました。

◆中国大学生

今回のアジア学生映画コンファレンスの入選作品上映会で、日本の学生の映画を観て、多くの新しい発見がありました。クロージングパーティーで、私の好きな日本の映画監督と深く交流する機会があり、彼のインスピレーションが日本のアニメ文化に由来していることを知りました。これにより、自分の創作の歩みを振り返り、より多く考え、私たち自身の優れた伝統文化の宝庫からインスピレーションを得るよう激励されました。例えば中国の哪吒（ナタ）神話は、現代の文脈の中での現代化された変化や創作において、意識的に自身の文化的アイデンティティからインスピレーションを吸収し、創作に還元しています。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 東京国際映画祭 事務局

上海電影学院の学生の皆さまは、交流会でも率先して他校の学生に声を掛けて交流したり、マスタークラスでも積極的に講師の監督に質問を投げかけたりと、映画祭およびマーケット（TIFFCOM）の双方において非常に前向きに取り組んでいただいていたのが印象的でした。

また、映画祭最終日のクロージングパーティーの時には、学生の皆さまおよび副団長からも、次はアジア学生映画コンファレンスのグランプリがとれるようなさらに良い作品を持ってきます！という頼もしいお言葉をいただきました。

今回の映画祭・マーケット参加を通して、学生の皆さんにとって何かしら刺激となるものが得られていればよいなと思っています。

◆ TOHO スタジオ

上海電影学院の先生方・生徒さん方の熱心さに心打たれました。恐らく、皆さんが学ばれている学

院の施設のほうが、弊社スタジオよりも大きくて立派なのではないかと推察します。それでも、熱心に案内を聞いてくださったのが印象に残っています。これを契機に、両国の映画人が一層交流を深めることを祈念します。また、機会があれば東宝スタジオからも中国の映画施設を見学に伺えればと思いました。

ご案内していて、中国の皆さんが知っている日本映画は意外に少ないのではないかと感じました。特に近年の日本の実写映画や配信コンテンツは多くはないようです。制作面だけではなく、映画界全体の日中交流を願って止みません。

◆ 日本大学芸術学部

短い時間ではありましたが、学生さんからの活発な発言があり有意義な時間となりました。在校している留学生とも交流ができたようでお互いに刺激になったかと思います。授業期間中ということで学生も教員もなかなか時間が取れず当初のご希望に添うことができませんでしたが、スタッフの方々のお陰で当日は滞りなく進められたかと思います。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

第38届东京国际电影节闭幕🎬这次受中日友好会馆的邀请来到东京的参访行程，也算是画上了一个浪漫的句号。

一群来自中国的年轻电影人，和一群来自世界各地的电影人待在一起，白天跑影展、看片、交流，晚上在小酒馆围着一桌，聊创作、聊镜头、聊我们心里想拍却还没拍出来的故事。有时语言完全不通，但电影本身就是共通语言。很多个瞬间对方就能秒懂，继续往下说。

在这段日子里，最打动人的其实不是红毯、不是仪式、不是名片交换，而是我们团队一次次发自真心地说着我们电影学院的口号“电影未来齐聚于此。”好像我们真的在做一件伟大事情。

电影世界很大，路很长，但我们不是一个人走的。

期待下一次再相遇。

也期待我们把故事拍得更好。



2025 年 11 月 5 日（微信）

第 38 回東京国際映画祭が閉幕。今回は、日中友好会館の招聘で東京を訪問した。中国の映画人たちは世界各地の映画人と一緒に、昼は展示見学や映画鑑賞、交流などを行い、夜は創作や撮影シーン、まだ撮っていない胸に秘めたシナリオなどについて話した。言葉は通じにくくても映画は共通

作为一名来自上海大学上海电影学院的学生，此次随我们院长赴日交流访问，不仅拓宽了我们的国际视野，也深刻体会到了中日文化在影像表达与技术呈现上的共通与互补。从角川武藏野博物馆的全景浮世绘沉浸式展览，再到东京国际电影节的亚洲影人交流，每一处都让我意识到：不同国家的文化不是孤立的符号，而是可以被技术激活、被影像转译、被再创造的“活的传统”。

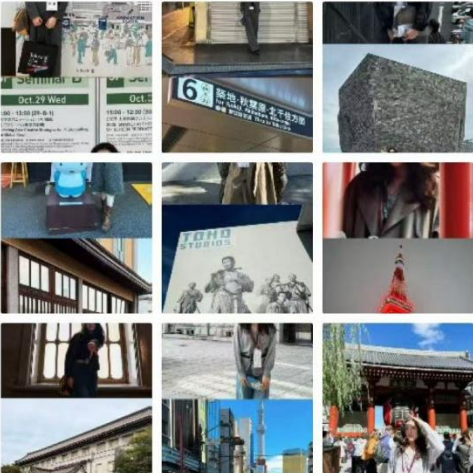
其中，角川武藏野博物馆中那幅 3D 全景浮世绘展览最让我记忆犹新——它并非简单的技术重现，而是以数字手段重构了江户川时代的市民生活。我不禁联想到了 2010 年上海世博会上在中国馆首次展出那幅数码动态版《清明上河图》。两者虽一东一西，转换形式也各不相同，却都在用数字影像“唤醒”传统，让历史“流动”起来。这种“文化-技术-影像”的三重对话，正是我们电影学院学生最应关注、也最能发挥专业所长的地方。

閉じる



2025 年 11 月 11 日（微信）

上海大学上海電影學院の学生として、今回、院長と共に日本を訪れ、交流する機会を得たことは、私たちの国際的な視野を大いに広げただけでなく、映像表現や技術面における中日両国文化の共通点と補完関係を深く実感することができた。角川武蔵野ミュージアムでのパノラマ浮世絵の没入

言語。瞬時に相手に通じ、話を続けられた。この日々の中、最も心を動かされたのはレッドカーペットでもセレモニーでも名刺交換でもなく、団員たちが上海電影学院のスローガン「映画の未来はここにある」を心から言っていたことだ。本当に偉大なことを成し遂げたようだった。映画の世界は広く、道は長い。でも一人じゃない。いつか再会できますように。そしてもっといい映画を撮れますように。	型展示から、東京国際映画祭におけるアジアの映画人たちとの交流に至るあらゆる場面で、異なる国の文化は孤立した記号ではなく、技術によって活性化され、映像によって翻訳され、再創造される「生きた伝統」だと強く感じた。 その中でも特に印象に残ったのは、角川武蔵野ミュージアムで見た 3D パノラマ浮世絵展だった。それは単なる技術的再現ではなく、デジタル技術を用いて江戸時代の市井の暮らしを再構成したものだった。私は思わず、2010 年の上海万博の中国館で初めて公開されたデジタル動態版《清明上河図》を思い出した。 両者は一方は東、一方は西の国で、それぞれ形式は異なるが、同じくデジタル映像を使って伝統を呼び覚まし、歴史を「流動」させている。こうした「文化－技術－映像」の三重の対話こそ、私たち電影学院の学生が最も注目し、また専門性を発揮できる分野だと思った。
电影人的夜晚耶 🥰 📍 TIFFF 🎬  21小时前 日本・千代田区・東京駅	充実 in Tokyo 🐱 
2025 年 11 月 5 日（微信） 映画人の夜。TIFF	2025 年 11 月 6 日（微信） 充実 in Tokyo

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）



【成果の発表】

文化に深く浸る時間であったと同時に、映画専攻としての学びを深める貴重な修行でもありました。今回の訪問が、私自身の創作活動の新たな出発点となると同時に、日中の映像文化交流を結ぶ小さな架け橋になればと願っています。

【アクション・プラン】

今回得た経験を積極的に共有し、学びとインスピレーションを創作への原動力と発信への熱意へと変えていきたいです。授業では、日本の優れた映画のシナリオの構造や光と影の使い方をクラスメイトと共に紐解き、作品制作では、日本的な映像の繊細な質感と自分の身近な物語を掛け合わせ、より張りのある表現を探求していきたいと思います。



【成果の発表】

東京国立博物館など日本の歴史が刻まれた場所を訪れ、豊かな文化に触れることができました。また、著名な TOHO スタジオ(株)を見学し、東京国際映画祭の一連のイベントに参加することで、日本の映画産業に関する多くのことを知り、大きな収穫を得ました。

【アクション・プラン】

今回の活動を通じて、世界各国の映像クリエイター、とりわけ日本映画界の監督、プロデューサー、俳優の方々と出会うことができました。その中のあるチームと深く交流し、帰国後に制作予定の私の卒業制作の長編作品について意見交換しました。彼らと協力して日本の俳優を起用し、個人の視点から国境を越えた文化を描くことを考えています。今後も映像を媒介として、この貴重な記憶と友情を未来の作品へと昇華させ、両国の若者たちにふさわしい、熱く力強い青春の表現として結実させていく決意です。

実施団体名：公益財団法人日中友好会館

協力団体名：在上海日本国総領事館